

英語のつづりは発音どおりではない

ここで、英語でも、ことばの正しい意味を、文字がささえていることを、お話ししたいと思います。

one(一つ) two(二つ)……の「one」というつづりをごらんください。

オーエヌイー ONEですね。この三つの文字の発音を連ねますと、オウヌイー {ouni:}となり

ますね。このオウヌイー {ouni:}というのは、16世紀のころの発音です。{ {ouni:}

がオウン {oun} に変わり、さらにウウン {wun} に変わり、現在のウワン {wʌn} に変わったのです。

では、こんなに変わったのに、なぜ表音文字を使っている英語が、むかしのつづりを変えないのでしょうか。

それは、「o, n, e」という三字の組み合わせが、四世紀もの長い間にわたって、意味を表わす表意文字のような効果をもつようになったからです。フランスの言語学者ソシュールは、これを、「表音文字の表意化」と呼んでいます。つまり、発音を表わす表音文字が、漢字と同じ

ように意味も表わすという効果をもつようになったということです。

「alone(ひとりで)」「only(ただ一つ)」の「one(on)」は、ワン、ツアの「one」と同じ意味で、しかも、発音は、16世紀のころの音に近いものをいまもなお保っています。ところが、「one」の発音が{wʌn}になったからといって、「won」とつづりを変えたら、「win(勝つ)」の過去を示すことばの「won」とまちがえやすくなってしまいます。そればかりではありません。「alone」や「only」との意味のつながりが切れ、それらのもつ意味をはっきりとつかむことがむずかしくなってしまいます。それを恐れるから、「one」というつづりを変えないのです。

このように、英語でも、文字がことばの意味をささえているのです。文字を知っているのと知らないのとでは、同じことばでも、その深さが……味わいが、ぐんとちがってくるのです。